

1月31日 時間

「1月は往ぬ、2月は逃げる、3月は去る」。年明けから年度末に向けてのスピード感を表現した言い回しだが、言い得て妙な感がある。

年が明けたと思ったら、今日で1月も終わり。スーパーマーケットの主力商品はチョコレートに変わってしまった。おそらくは、あっという間に「ひな人形」、そして「五月人形」が売り場にお目見えするのだろう。

ある脳科学者が興味深い話をしていて、人の脳は同じ時間を費やしていても、「知らないこと」は長く感じ、「知っていること」は短く感じるのだそう。私はこの話を聞いて「分数に似ているな」と思った。自分の年を分母に据えると、1年の割合が小さくなることがわかる。なるほど、小学校の6年間は飽きるほど長かったのに、中高の6年間はあっという間だった。「知っていること」がそんなに増えたわけではないのに。

仕事柄「知ったつもりになっていること」が多い。よくよく考えると「なぜ」が山盛りになる。例えば、文頭の「往ぬ」は文語なのになぜ「逃ぐ」ではなく「逃げる」？謎は深まるばかり。年のせいか、忘れることが多くなった今日この頃。将棋の藤井青年ではないが、熟考して、少しは年月が長く感じられるようになりたいものだ。

